

令和 2 年 6 月 26 日現在

機関番号：37123

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K20869

研究課題名（和文）高齢者のヘルスリテラシーと服薬管理の関連

研究課題名（英文）Health Literacy and Medicine management in older adults

研究代表者

鬼丸 美紀 (ONIMARU, Miki)

日本赤十字九州国際看護大学・看護学部・助教

研究者番号：70580728

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、地域高齢者のヘルスリテラシーと服薬管理の状況の関連性を明らかにすることで、高齢者の服薬管理能力を向上させるための具体的方法について検討することであった。しかし、高齢者への調査を十分に行うことができなかったため、本研究の目的である、ヘルスリテラシーと服薬管理の関連性については明らかにすることができなかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

調査が十分に行えなかった為、研究成果として挙げることができていない。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is investigate the relationship between health literacy and medication self management in older adults, and consider a way to improve their self-management skills.

But I couldn't carry out questionnaire survey for older adults.

研究分野：看護

キーワード：子高齢者

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

加齢に伴い複数の疾患を合併することが多くなることから、複数の薬を服用する高齢者は少なくない。東京都健康長寿医療センター研究所のチームが 2013 に東京都内で行った調査では、日常的に薬を服用している自宅暮らしの高齢者の約 4 割が、6 種類以上の薬を服用しており、10 種類以上の服用者も 9%いたと報告されている。このように多数の薬を自己管理する必要のある高齢者では、多剤併用による薬物間相互作用による有害作用の出現や、飲み忘れや飲み残し、薬の中断・自己判断による調節等の服薬自己管理能力が問題となっている。

一方、申請者が 2014 年に行った調査では、65 歳以上の女性では、ヘルスリテラシーの得点が高い者に薬の自己中断・自己判断による服薬量の変更を経験したの多いという結果を得た。先行研究結果は、ヘルスリテラシーの低いものに服薬管理能力が低いとのものが多く、結果の不一致はあるものの、必要な情報にアクセスし、理解し利用する個人の認知・社会的スキルであるヘルスリテラシーの特性からも、この結果は検討するに値するものであると考えた。

### 2. 研究の目的

申請者の行った調査による、ヘルスリテラシーが高い者は、服薬管理において自己中断・服薬量の変更を経験しやすいという結果は、これまでの先行研究結果、ヘルスリテラシーが高い方が薬の自己管理が良いという結果と反するものであり、先ほど述べた、服薬コンプライアンスが低下する原因とも一部反する結果である。この調査は対象者が 82 名と少なく、特に男性が少数であったため十分な検討とは言えない。しかし、「批判的ヘルスリテラシー」の高い高齢者が薬の自己中断・自己判断による薬の投与量変更を経験しているという結果は、情報を批判的に分析する能力の高い高齢者の特徴ともいえるものであり、つまりは服薬管理に主体的に係ろうとした結果が現れている可能性もある。健康を維持・増進するために必要な情報にアクセスし、理解し利用する個人の認知的・社会的スキルであるヘルスリテラシーの向上は、服薬管理においても誤った自己判断を防止できるなど重要な役割を果たす可能性が高い。

本研究では、調査対象者を増やし、ヘルスリテラシーが高い者は、服薬管理において自己中断・自己判断による服用量の変更を経験しやすいのかを再調査すると共に、自己中断した理由や薬の内容等を具体的に調査し、ヘルスリテラシーと服薬管理状況との関連を明らかにすることで、高齢者の服薬管理能力を向上するための具体的方法について検討する。

### 3. 研究の方法

地域在住の高齢者のヘルスリテラシーと服薬管理状況の関連性を明らかにするために、高齢者事業参加者を中心に質問紙調査を行う予定であった。

また、この結果は高齢者のヘルスリテラシーの実態として分析し、服薬管理状況との関連性では機能的/伝達の/批判的ヘルスリテラシー各々の得点との関係を分析する予定であった。

研究の遅れにより、倫理審査の承認が令和元年度となり、質問紙調査の進行も進まず、追加調査等を行う予定であったが、コロナウイルス禍の影響もあり、調査を中断することとなった。

### 4. 研究成果

質問紙調査の作成、倫理審査の承認を得ることはできたが、高齢者事業参加者に対しての質問紙調査を十分に行うことができなかった。その為、本研究の目的であるヘルスリテラシーと服薬管理状況の関連性を検討するに至っていない。



5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----